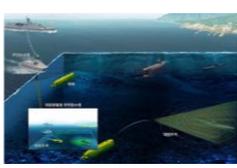
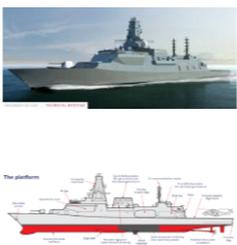


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -186	2022/11/15	South Korea Reveals New 'Navy Sea GHOST' Concept	韓国が新たな「海軍シーゴースト」構想を明らかにした	Naval News 2022/11/15	 韓国海軍が無人ブークルを本格的に活用した「シーゴースト」構想なるものを発表しました。主として対水上戦、対潜戦を主眼とした有人無人システムを統合した構想です。対潜戦の構想はFFMの対機雷戦モジュールに類似しています。各国ともに無人機の開発と本格活用に力を入れています。海上自衛隊も後れを取ってはなりません。	佐々木司
2022 -187	2022/11/15	BAE Systems Gets Contract To Build 2nd Batch Of 5 Type 26 Frigates	BAE SystemsがTYPE26フリゲートの第2組となる5隻の建造契約を獲得	Naval News 2022/11/15	 英BAEシステムズがType26型フリゲートについて、現在建造中の3隻に加え、新たに5隻分の契約を獲得しました。日本の「あさひ」並みの寸法、性能のフリゲートが1隻あたり約1390億円で、日本と比べると随分と高額です。造船所のレートが高いのか、特殊な材料や装備品があるのか？イージス艦並みの性能を持っているようには見えませんが。	佐々木司
2022 -188	2022/11/16	Navy Releases Admiral's Mast Results from Bonhomme Richard Fire	海軍が「ボノム・リシャール」火災で懲戒処分(アドミラルズ・マスト)を発表	USNI News 2022/11/16	 放火容疑の水兵は無罪になったことを先月紹介しましたが、最近になって艦長、副長、前任伍長、その他3名が懲戒処分を受けたというニュースです。	岩崎洋一
2022 -189	2022/11/1	The Black Sea: A Unique Place	黒海: そのユニークな場所	Proceedings 2022/11/1	 黒海について説明した随筆です。特徴として酸素濃度が極めて低く、木材を腐食させることがないため、2,400年前の世界最古のギリシャの難破船が完全な形で引き揚げられたということです。プロシーディングス誌11月号から。	岩崎洋一
2022 -190	2022/11/30	What's ahead for Navy unmanned underwater vehicle programs	海軍の無人水中ブークルプログラムでは何が先行しているのか	Naval News 2022/11/30	 米海軍が広く開発を手掛けている各種UUVの開発進捗状況がよくわかる記事です。概して潜水艦で運用するUUVの開発は遅延気味で、掃海用のUUVは比較的順調に見えます。紆余曲折があったLCS対機雷戦ミッションモジュールはまだ実験段階のようです。早くしないと母艦となるLCSが全て除籍してしまうかもしれません。それに比べると日本のEMDは優秀です。	佐々木司
2022 -191	2022/12/1	Royal Navy purchases its first uncrewed submarine	英海軍が最初の無人潜水艦を調達	Navy Lookout 2022/12/1	 英海軍がXLUUVの調達に乗り出しました。米海軍のBoing ORCAとは異なり、推進系は蓄電池のみの単純システムですが、多様なニーズに対応したオプションが組み込まれており、実用段階に近づいていると感じます。陸上発進型ではなく、潜水艦搭載型のように見受けられますが、詳細な運用の構想については不明です。同一時期に運用が本格化する、次期SSN(R)の設計にも反映するため、先行的に試験運用を開始するものと思われます。本UUV自体と次期SSN(R)へのフィードバック事項について、いかなる事項が抽出されていくのか、注目です。	本山泰之
2022 -192	2022/11/22	Navy to seek guarantee from Chinese counterpart on Chinese-made submarine engine	海軍は中国製の潜水艦エンジンについて中国側に保証を求める予定	THE NATION THAILAND 2022/11/22	 タイ海軍潜水艦の続報です。本年10月に就任したばかりの最高司令官の発言は、固い決意に満ちており、明快です。70年以上も潜水艦運用の空白期間があるタイ海軍が、運用実績、性能保証もない機関を搭載した潜水艦を受領することはありえないことで、中国に性能保証を求めるのは、当然だと思います。加えて、中国海軍の直接的関与も求めています。中独両国が好むと好まざるに関わらず、本件がこれだけ大きな問題になった以上、ドイツは中国潜水艦向けにディーゼル発電機その他、多くの機器類が輸出できなくなる可能性があります。このため、中国は、潜水艦用搭載機器類の国産化を強力に進めるかも知れません。いずれにしても、本件がどのような決着を見るのか、今後の推移に注目しています。	本山泰之
2022 -193	2009/10/1	Leyte Gulf: The Pacific War's Greatest Battle	レイテ湾: 太平洋戦争最大の戦い	Naval History Magazine 2009/10/1	 レイテ沖海戦の総括です。小沢四艦隊に引き付けられたハルゼーに対し、ニミッツからの電報「TF 34 はいず こにありや? 全世界が知らんと欲す」が有名ですが、この言葉は単なる電報の前と後に付ける暗号用の符号が独り歩きした逸話であることが、最後の読者コメントに載っています。海軍歴史マガジンから。	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -194	2022/12/5	Russia burning through ammunition in Ukraine at 'extraordinary' rate	ロシアはウクライナで、「異常な」割合で弾薬を使い果たしている	Navy Times 2022/12/5	 ロシア軍の弾薬備蓄状況の分析や、米国内でのウクライナ支援用兵器生産体制などに関する記事です。ロシアがウクライナ侵攻以降、弾薬を異常なペースで消耗し、備蓄量が枯渇していると米国では分析しています。一方、米国がウクライナに提供するミサイルは米国内で生産能力一杯の状況が続いているようです。米国内軍需産業は相当潤っているように感じます。	佐々木司
2022 -195	2011/12/1	Pearl Harbor's Overlooked Answer	見落とされている パールハーバーの意味	Naval History Magazine 2011/12/1	 81年前の壮挙を顧みて、今の時代のゲームチェンジャーを探ることが最も大切と感じさせる論文です。 米海軍歴史マガジン2011年12月号から。	岩崎洋一
2022 -196	2022/12/1	'Aegis to Sea'	「イージス・トゥー・シー (Aegis to Sea Sea)	Proceedings 2022/12/1	 なにごと物事を成功させるためには、強烈なリーダーシップとその計画に相応しいモットー(合言葉)、そして周辺のネガティブな考えを持った者たちの撃退が必要です。おっと、パワハラはいけませんよ……。プロシーディングス誌12月号から。	岩崎洋一
2022 -197	2022/12/13	SECNAV Names Next Big Deck Amphib USS Fallujah	海軍長官が次期大型強襲揚陸艦に「ファルージャ」と命名	USNI News 2022/12/13	 アメリカ級強襲揚陸艦の4番艦が、イラクの激戦地の都市名に由来する「ファルージャ」と名付けられます。1番艦「アメリカ」と2番艦「トリポリ」はウェルデッキなしの航空運用中心の設計、3番艦「ブーゲンビル」からはウェルデッキが復活する予定です。	岩崎洋一
2022 -198	2022/12/1	Japan's Advanced Lithium-Ion Submarines	日本の最新型リチウムイオン潜水艦	Proceedings 2022/12/1	 プロシーディングス誌12月号で「たいげい」級の紹介をしています。海自は世界で最も高度な水中性能を発揮する潜水艦を持つ部隊の一員になると評しています。	岩崎洋一
2022 -199	2022/12/1	Digital Engineering Improves SPY-6 Radar	デジタル技術がSPY 6 レーダーを向上させる	Proceedings 2022/12/1	 レイセオン社は、レーダー等防衛装備品の設計に使うデジタル技術を進化させています。例えば、艦のレイアウトを入力し、レーダーをどこに装備すればどのようなレーダー画像が得られるかなどを、3次元環境で可視化できるようにして、設計の支援にしているとのこと。同社はイマーシブ(実体感のある)・デザイン・センター( IDC と呼ばれる施設を作って、人工知能、機械学習、モデリングとシミュレーションなどの高度なソフトウェアツールを使用して、様々な設計に生かしているとのこと。	岩崎洋一
2022 -200	2022/12/15	Document: Office of Naval Intelligence's Chinese People's Liberation Army Navy, Coast Guard Ship Identification Guide	文書: 海軍情報局による 中国人民解放軍海軍 および沿岸警備隊の艦船 識別ガイド	USNI News 2022/12/15	 ダウンロードすれば、拡大して詳細が見えます。	岩崎洋一
2022 -201	2022/11/28	A guide to the Type 26 Frigate	Type 26フリゲート艦への案内	Navy Lookout 2022/11/28	 英海軍のType 26の最新情報です。これまでの英海軍の艦艇に比べ、搭載装備品の国産化率が低い印象を受けます。近年稀な成功例として、すでに豪州、カナダ、ポーランド、インドネシアなどへの輸出契約がなされたとの情報があり、元々海外製品群との親和性が高い設計であったと推察します。しかし、英海軍の運用艦においても、大きな変化が見られます。また、メイン・マストは電波関連で艦装密度は非常に高いと思われますが、ノルウェーでFRPIにて構築され、MK45、Mk41の他、通信機器類もドイツ製が搭載されます。ミッション・ベイも初めて採用されています。今回は英海軍向け艦船の建造状況ですが、海外への輸出・建造そして運用を念頭に置き、如何なる設計的工夫がなされているか、関心をそそられます。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -202	2022/12/18	Royal Thai Navy Corvette Sinks in Gulf of Thailand	タイ王国海軍コルベットがタイ湾で沈没	USNI News 2022/12/18	 <p>タイ海軍のコルベットが荒天航行中になぜか機械室に海水が浸水して電力喪失、その後大傾斜して沈没しました。大破孔ができたわけでもないのになぜ？水密扉が1か所閉鎖不全な程度ではこうはならないはずです。記事では記載されていませんが、死亡者もいるようです。スペックを見ると排水量1000トン未満に砲やらミサイルやらてんこ盛りのトップヘビーな艦でした。</p>	佐々木司